

要旨

【目的】近年、子どもの性の多様性に関して学校教育では推進され始めているが、家庭における関わりは注目されていない。本研究は、これから母親となる女性のジェンダー及び多様なセクシュアリティに対する知識と態度、それに関連する因子を探索することを目的とした。

【方法】関東に所在する分娩施設に通院する 186 名の妊婦を対象に、無記名自記式質問紙調査を行った。性役割に対する態度、トランスジェンダー・ホモセクシュアルに対する態度、多様なセクシュアリティに関する知識について、記述統計、t 検定、一元配置分散分析等を用いて分析した。調査期間は 2017 年 10 月～12 月であった。本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査で承認を得て行った(承認番号:17-A067)。

【結果】有効回答者は 103 名であった(有効回答率 75.1%)。これまでに性別違和や LGBT など多様なセクシュアリティについて学んだことがある妊婦は 20.4%であり、学んだことのない妊婦に比べ、多様なセクシュアリティに関する知識得点が有意に高かった($F=1.118, p=0.049$)。平等志向的な性役割に対する態度に関連があったのは、多様なセクシュアリティに関する知識($r=0.324, p=0.001$)であった。多様なセクシュアリティに対する肯定的な態度に関連があったのは、多様なセクシュアリティに関する知識(用語の知識: $r=-0.233$ ・知識: $r=-0.270$)、多様なセクシュアリティの身近な知人がいる($F=0.022, p=0.018$)、性役割に対する態度の平等志向的傾向($r=-0.314$)であった。妊婦は子どもの性に関して、「(子どもが性的マイノリティであった場合の)認めたい気持ちと “普通” でいてほしい気持ちのジレンマ」「社会的には性の多様性を受け入れられるが、自分の子どものこととなると不安」「性教育の実施に関する不安」「親の性役割に対する態度が子育てに及ぼす影響」などの不安を抱えていた。

【結論】多様なセクシュアリティに関する知識がある妊婦は、性役割に対する態度が平等志向的に、多様なセクシュアリティに対する態度が肯定的な傾向にあった。その知識は、多様なセクシュアリティに関して教育を受けていることと関連していたため、今後、ジェンダーや多様なセクシュアリティのあり方に関して学ぶ機会を検討していくことが求められる。